

| 学校経営ビジョン | 重点目標 | 観 点 | 具体的手立て及び評価の視点 | 学校評価 | | | 関係者 評価 | ○成果 ●課題 ★対策 |
|---------------------------------|-----------------------|---|--|------|-----|--|---|-------------|
| | | | | 職員 | 保護者 | 評議員 | | |
| | | | | 職員 | 保護者 | 評議員 | | |
| 「やる気」 基礎学力の確実な定着と学力向上 | 1 学習指導の工夫・改善 | 1 授業改善 | 着実に学力が身に付くよう、授業研究会や研修の成果を生かし、授業の工夫・改善に努めている。 | 3.0 | 3.5 | 3.7 | ○ 少人数の特性を生かし、1. 読解力」を高める指導の工夫を宮崎大学との連携を図りながら授業研究会等を通じ、全職員で指導・改善の工夫を行うことができた。 ● テストや検査の分析を行い、分析結果に応じた対応については、まだ改善の余地がある。 ★ 定期テストなどに求められている学力を分析することができるような課題の設定をし、指導法の工夫改善をしていく。 | |
| | | 2 諸テスト結果の分析と活用 | 定期テストや対外テスト等の結果をもとに、一人一人の学習状況を把握し、授業に活用している。 | | | | | |
| | 2 少人数指導の充実と家庭学習の習慣化 | 3 乗り入れ授業 | 小中の乗り入れ授業により複式解消を図るとともに、小中で連携し、系統的な指導を行っている。 | 3.6 | 3.3 | 3.5 | ○ 小中の教職員が連携し、校種間の乗り入れ授業を実施することで、少人数指導で対応することができた。 ○ 帰りの午後、学習する場面・時間を設定することで、学習の習慣化を図ることができた。 ○ 西都市内の小中学校と交流学習会を設定することができ、児童生徒の成長の一助となった。 ★ 児童生徒の成長に繋がる場面の設定を考慮していきたい。 | |
| | | 4 家庭学習の充実 | 家庭と連携し、児童生徒の学力向上につながる家庭学習の推進に努めている。 | | | | | |
| | 3 学習環境の充実と読書活動の推進 | 5 宿題の工夫 | 授業と効果的に連動させた家庭学習を課し、教師がその学習状況や成果を見届けている。 | | | | | |
| | | 6 学習形態の工夫 | 目的に応じた学習形態や学習活動を工夫して、児童生徒の学びが深まるようにしている。 | | | | | |
| | | 7 ICTの活用 | ICTを活用して、児童生徒の意欲を高めたり、理解や思考を深めたりしている。 | 3.3 | 3.5 | 3.7 | ○ 児童生徒の学習状況を把握しながら、ICT機器の活用をすることができた。 ● ICT機器を活用する場面が増えきたが、児童生徒の学力向上のために有効な使用方法を確立していきたい。 ★ ICT機器の不適切な使用について、児童生徒へデジタル機器についてのモラル向上を図っていききたい。 | |
| | | 8 特別支援教育の充実 | 一人一人の力を伸ばすために、少人数の特性を生かした指導を行っている。 | | | | | |
| 「本気」 豊かな生活習慣の定着と心身の育成 | 4 基本的な生活習慣の確立 | 9 あたりまえのこと3か条の徹底 | 「早寝・早起き・朝ご飯」など、生活規律の必要性を理解させ、規則正しい生活を実践させている。 | 3.3 | 3.4 | 3.3 | ○ ほとんどの児童生徒が年間を通して、遅刻・欠席がなく元気に登校することができた。 ○ 里親・実親さんの協力の下で、児童生徒の基本的な生活リズムが整っている。 ● 深夜まで起きていて、時間を上手に使えていない生徒が一部いた。 ● 一部の児童生徒で、校内校外でのあいさつの声が小さい場面があった。 ★ 保護者と連携し、里親生活のルールの確認をしていながら、安定した生活リズムの確立に努めていききたい。 | |
| | | 10 キャリア教育の充実 | 個々のキャリア発達のために必要な意欲や態度・能力を育てている。 | | | | | |
| | 5 将来について考え、温かい人間関係を築く | 11 道徳教育の充実 | 児童生徒の道徳性を育む教育を、道徳の時間を中核としながら全教育活動を通して取り組んでいる。 | 3.2 | 3.6 | 3.7 | ○ 多少のトラブルはあったものの、年間を通していじめ人権に係る大きな問題は発生しなかった。 ○ キャリア教育については、外部指導者の協力を得て、多岐にわたる学習や実践を行うことができた。 ● 友人間で相手の気持ちを尊重することなく発言する場面があった。 ★ 様々な場面・行事を通して、相手の立場を理解しながら、場に応じた言葉遣いができるように常時指導を行っている。 | |
| | | 12 人権意識の高揚 | 発達段階に応じて人権の大切さを理解させ、互いの人権を尊重する社会を築けるよう指導している。 | | | | | |
| | 6 体験的学習と奉仕的活動の推進 | 13 さいと学の充実 | 西都市の教育資源を活用し、市の未来や自分の生き方について考える機会を設定している。 | | | | | |
| | | 14 各種行事の充実 | 自然体験やボランティア活動を通して、学校行事とのつながりをもたせ、効果を高めようとしている。 | 3.4 | 3.6 | 3.3 | ○ 総合的な学習を計画的に実践し、外部の指導者と連携しながら地域とのつながりを考えたり、伝統継承・自然体験活動に積極的に取り組むことができた。 ○ 運動会や文化祭などの準備や本番を通して、地域の伝統文化継承のための活動を行うことができた。 ○ みらいゼミや交流学習等で、しっかりと発表することができた。 ● 伝統・歴史の趣旨を理解する場面をもっと積極的に推奨していけばよかった。 ★ 体験実施の前に、伝統・歴史に関して学習する場面を積極的に取り入れていききたい。 | |
| 15 地域行事への積極的参加・協力 | | 伝統継承・自然体験活動など地域との交流を通して、児童生徒の豊かな心を育てている。 | | | | | | |
| 「元気」 健康・安全の推進と体力の向上 | 7 生活のリズムの確立 | 16 生活記録や連絡帳の活用 | 児童生徒の日常生活を把握してコミュニケーションを図るとともに、表現力を身に付けさせている。 | 3.5 | 3.6 | 3.0 | ○ 日々の健康観察やマスク着用・手指消毒、施設の消毒等、実践することができた。 ○ 地産地消の観点から、給食指導等、食への関心を高めることができた。 ● 一部決まった生徒が、腹痛を訴えてくる場面があった。 ★ 里親・実親と保健室との連携ができているので、現状を維持し、児童生徒の生活リズムを整えていく。 | |
| | | 17 健康観察の充実 | 日常的に児童生徒の健康状態を観察し、心身の健康状態を把握し、適切な対応を行っている。 | | | | | |
| | 8 食に関する指導の充実と心身の健康維持 | 18 食育の充実 | 食べ物に対する感謝の心を健康に留意して食べることの大切さを学ばせている。 | | | | | |
| | | 19 給食指導の充実 | 望ましい食習慣を身に付けさせ、明るい社交性を養い、心身の健全な育成に努めている。 | 3.3 | 3.4 | 3.3 | ○ 学校栄養士による指導や家庭科の授業、また、給食感謝週間等を利用して、日々の給食指導を通して、栄養バランスを意識させることができた。 ○ 個々人の部活動への取り組み姿勢を確立させ、地域の指導者との連携を図りながら、県大会への出場など好成績を残すことができた。 ● 教育相談を定期的の実施しているが、突発的な相談実施が必要な場面があった。 ★ 部活動の地域移行に向け、今後の部活動の在り方を精査する必要がある。 | |
| | 9 安全教育の充実 | 20 部活動の充実 | 生徒の自主的、自発的な参加を促し、教育課程との関連を図り、効率的・効果的に取り組んでいる。 | | | | | |
| | | 21 教育相談の充実 | 対人関係や、学習・生活・進路等に関する相談を通して、悩みや困り感の解決を図っている。 | | | | | |
| 10 安全教育の充実 | 22 避難訓練の実施 | 火災・台風・地震を想定し、児童生徒が安全に避難できるようにするための訓練を実施している。 | 3.5 | 3.4 | 3.7 | ○ 避難訓練の定期的な実施により、教職員と児童生徒の危機管理意識を高めることができた。 ○ 諸行事前における除草作業など、PTAや地域の方々との協力で、環境保全に努めることができた。 ● 今年度は、1クォーターへの要請はなかったが、いついかなる時にも対応をすることができるよう、準備しておく必要がある。 ★ 台風や災害時における避難施設としての在り方について、職員としての対応を整理しておく必要がある。 | | |
| | 23 学校環境の整備 | 学習・生活環境を整備し、児童生徒が安全で落ち着いた雰囲気の中で過ごせるようになっている。 | | | | | | |
| 「開かれた学校」 小中一貫教育の推進と地域・学校との連携 | 10 教師の指導力向上 | 24 防災教育の充実 | 防災意識を向上させ、様々な危険から児童生徒が安全を確保して行動できるように指導している。 | | | | | |
| | | 25 教育課程の工夫 | 施設一体型の特色を生かし、学習指導や生徒指導に小中学校が連携し、教育活動を充実させている。 | 3.3 | 3.6 | 3.3 | ○ 小中合同の行事を実践したり、地域との連携を図ったり、特色ある学校づくりに努めることができた。 ● 行事が立て続けにある期間など、教職員及び児童生徒に負担感が感じられる場面があった。 ★ 年間行事精選や諸行事の関連を考慮しながら、教職員及び児童生徒の負担感を軽減することができるような教育課程の編成に努めていきたい。 | |
| | 11 学校教育活動の情報発信 | 26 校内研修の充実 | 小中の共通理解、共同実践が推進され、相互の連携や協力体制の確立が図られている。 | | | | | |
| | | 27 学年・学校便りの発行 | 教育方針や課題、教育活動の情報を公開し、地域・保護者との連携のために役立っている。 | 3.5 | 3.5 | 3.3 | ○ 学校HPの更新を、週に3回実施し、学校便りや学級通信等を用いて、諸活動について発信することができた。 ● 山がっこや東米良創生会との連携を図ることができるように、創生会・学校の定期的な会合をもつことができるように。 ★ 様々な地域関連の活動において、更に学校と地域とが一体となって地域の教育力を生かす学校運営に努める。 | |
| | 12 山村留学実行委員会との連携・協力 | 28 HP更新 | 保護者・地域と連携を図るために、日々の児童生徒の様子などを効果的に発信している。 | | | | | |
| | | 29 スクールコミュニティの充実 | 学校と地域・保護者が連携して学校の運営に取り組む、地域とともにある学校の実現に努めている。 | 3.5 | 3.6 | 3.3 | ○ 山村留学実行委員会事務局と協力して、広報活動・山村留学一日体験入学・面接など円滑に実施することができた。 ● 県・市が推奨しているタブレット持ち帰りに関する指導を、里親宅におけるルール作りを行い、実態に応じた指導が必要である。 ★ 里親さんの高齢化における受け入れ困難な状況が今後考えられるので、家族留学受け入れの促進など、対応を構築していく必要がある。 | |
| 13 地域学校協働活動の推進 | 30 各種行事への協力 | 自然体験や伝統文化体験などの行事において、地域の教育力を生かした教育活動が推進されている。 | | | | | | |
| | 31 留学生受け入れに係る連携推進 | 学校・山村留学実行委員会・里親・実親との連携が図られ、留学生受け入れが円滑に行われている。 | 3.3 | 3.3 | 3.7 | ○ 地域の方々の協力のもと、地域芸能伝承や農業体験・自然体験など、計画的に指導時間を工夫することができた。 ● 山がっこや創生会の活動に対して、児童生徒が受け身的な活動があったので、積極的な参加をすることができるようにしていきたい。 ★ 里親・実親と学校とで更に密に連携を深めながら、児童生徒への多様な場における指導の充実を図る。 | | |
| | | 32 家庭や地域との連携による学校支援の充実 | 学校と地域とが目標を共有し、双方で連携・協働し活動している。 | | | | | |
| | | 33 児童生徒の健全育成、家庭教育の充実 | 児童生徒の健全な育成に育成のために学校と里親・実親とが連携し家庭教育の充実を図っている。 | | | | | |